

	2018年3月 福岡県公立入試分析と傾向	次年度以降の対策
国語	<p>難化。問題構成および出題傾向が大幅に変わったこともあり、平均点ベースで昨年より5点前後下がると予想される。国語は最初の試験教科なので面食らった受験生も多かったはずだ。今年から試験時間が5分延長され50分になったが、このボリュームを考えると、判断のスピード感がなければ時間切れとなってしまった可能性が高い。</p> <p>大問数が4題から5題へと増え、<b>1</b>に独立して語彙の問題（漢字や四字熟語）が入った。それも配点が9点分ある。以下、<b>2</b>が説明文（12点）、<b>3</b>が小説（12点）、<b>4</b>が古文（12点）、<b>5</b>が条件作文（15点）だった。</p> <p>また、記述形式はおよそ例年通りだが、題材として使われている本文が読み易いため、それほど難しくはなかったように思われる。ただ、今年の場合は、それ以外の内容一致問題における正誤判断がやや難しい。なお、<b>5</b>の作文は、キャッチフレーズを考えようという新しいパターン。さらには、書き出しの一文と最後の一文が既に書いてあるため、逆にミスが起こったかもしれない。文末表現（敬体と常体）の一致に気を配れたかどうか。</p> <p>以下、大問ごとにまとめる。</p> <p><b>1</b> 語彙（漢字や四字熟語） 「復興」を書かせるのは、例年と比べて難度が高い。また、「継承」や「日進月歩」といった言葉の持つ意味・ニュアンスを選ばせるのも新傾向。</p> <p><b>2</b> 説明文 日本と欧米の住居の違いに見られる自然観に関する文章が題材。例年に比べて読み易く設問も少なめだった。問1（ア）は「樹木」が模範解答だが「木造」と書いた受験生多数。</p> <p><b>3</b> 小説 登場人物3人の心情を読み取っていく。本文は読み易く、話の展開もわかりやすい。問4（イ）の記述に少し手間取ったかもしれない。</p>	<p>3点、挙げておきます。</p> <p>①まず、国語力は語彙力です。知らない言葉や漢字に出会ったときは、その都度調べてください。普段から「ことば」に対する感覚を磨き、日本語を上手に使いこなす意識を持ちましょう。</p> <p>②次に古典に関して。古文・漢文は、短くておもしろみのある文章を選び、まずは音読から始めましょう。おおまかな意味を捉えることができれば十分です。</p> <p>③最後に作文に関して。普段から「書き言葉」を意識して使ってください。そして、試験の場合は「条件」が設定されていますから、その範囲の中で、自分の主張を書くように心がけましょう。</p> <p>受験勉強において、国語という教科は最も勉強時間が少なくなりがちです。ただ、母国語であるからこそ、感覚に頼らず論理的に解く必要があるとも言えます。現中2・中1生も、一度、今年の入試問題に挑戦してみることをオススメします。学校の定期テストとは異なり、初見の文章を大問1題につき約10分で乗り切っていかなければなりません。それも国語は入試において最も緊張する最初の教科になりますから、実は思った以上に大変です。</p> <p>素早く読んで理解して、素早く過不足なく書くために、他教科と同様、どうしても訓練が必要になります。苦手な人は、問題集を丁寧に解くことによって、まずは平均レベルまで引き上げていきましょう。他のどの教科においても、記述力（書くチカラ）が求められる時代です。国語の学習はその基礎になります。</p>

	<p>4 古文 徒然草が題材。短くて易しめ。それをもとに2人の会話に適語を入れていく形式。逆に会話部分がヒントになったはず。</p> <p>5 作文は「生徒会活動」のキャッチフレーズを考え、それを作文にするもの。ただし、最初の一文と最後の一文が書いてあることに注意。2段落指定のほか、条件をクリアしながら文体（ですます調※敬体）で書きたいところ。</p>	
<p>数学</p>	<p>大問数は6題で例年と同じだったが、問題の構成や記述問題の増加など随所に変更点が見られた。</p> <p>1 計算・小問題が9問で昨年と同じ。例年大問6で出題されていた「ねじれの位置」の問題や、関数についての選択肢の問題など新しい傾向が見られた。（配点21点、難易度は例年並み）</p> <p>2 約20年続いていた文章題から式による証明の問題に変更されていた。ただし、数年前まで大問3で出題されていた問題なので、過去問で練習していた生徒にとっては難しくはなかった問題である。（配点7点）</p> <p>3 新傾向問題。度数分布表からそれぞれの資料の特徴を読みとり、比較・説明するという問題。よく考えてみるとここも難しくはないが、答え方に戸惑った生徒が多かったのではないかと。（配点5点、）</p> <p>4 例年通り関数を活用した問題。(3)では解答までの過程を記述形式で答えさせる問題になっていた。配点も高く、上位校の受験生はここが1つのポイントになると思われる。（配点9点、難易度は例年並み）</p> <p>5 合同な図形の性質や相似の証明、求積の問題。相似の証明をきっちりと書き上げることがポイント。（配点11点、難易度は例年並み）</p> <p>6 空間図形の問題。問題数が2問と例年より1問減り、さらに最後の問題も難易度が高く、</p>	<p>福岡県の公立入試問題の特徴として、問題文がとにかく長いのだが、今年はさらに長くなり、また記述量も大幅に増加した。できるだけ短時間で意味を正確に読み取る訓練、および問題に対して「なぜそうなるか」理解しておくことが必要。そのためには語句の意味をよく理解し、図表に表したり、ポイントとなる箇所にマーキングしたりしていくという工夫も必要。また出題範囲もほぼすべての単元から出題されているので、学校での定期テストの時から確実に基礎を定着させておき、中3の夏に掘り起こしていくという学習が重要である。</p> <p>大問1の小問集合（21点分）ではミスなく確実に得点していくことがポイント。当然丁寧な計算が必要だが、上位校を目指していく生徒は更に解答スピードも必要になってくる。日頃から、問題を解くときに『時間を意識して解く』という癖をつけておきたい。</p> <p>また2、3、4、5の記述・証明問題（20点分：昨年14点分）ではやはり練習量と、正しく理解しているかがポイントになる。今年は4の傾向が変わって対応できなかった生徒も多かったようだが、何をもとにして、どのように解くか、その途中過程を重視しつつ、幅広い問題への取り組みと練習量が必要だ。</p> <p>更に図形問題はそれぞれに難問が待っている。1・2年生で習った図形の性質や公式・定理などを早めに復習し、それぞれの学年末までには確実な基礎力に仕上げておきたいところだ。</p> <p>ここ数年、平均点数が30点前後で上下しており、記述量も増えている。来年度以降もこの状態が続くそう。1、2年生へのアドバイスとしてまず、①解くた</p>

	<p>大問としての正答率は下がりそうである。(配点7点、難易度はやや難化)</p> <p>問題の難易度は全体的に昨年よりも易化したように感じるが、新傾向問題や出題パターンの変更、さらに記述問題が増えたことにより、平均点も例年並みの30点をやや超えるくらいになると予想される。</p>	<p>①の途中過程を書くクセをつけていくこと、②用語の意味を正しく理解していくこと、③自分の弱点を知り、苦手な単元に対してとにかく早めにそして前向きにコツコツと復習、そして質問すること！</p>
<p>社会</p>	<p>出題傾向に変化はあるが、難易度は昨年並み。県平均点は50%前後になるだろう。学区トップの筑紫丘なら50点、春日で45点、筑紫で40点は確保したい。なお、記述形式のウエートは相変わらず高い。また、記号問題の両解・全解の設問も多いため、特に地理分野で点数が取りにくくなっている。</p> <p>大問構成は従来どおり、<b>1</b>と<b>2</b>が歴史(20点)、<b>3</b>と<b>4</b>が地理(20点)、<b>5</b>と<b>6</b>が公民(20点)であった。全体として、歴史(近現代の比重が高い)と公民分野は比較的平易な問題が多いが、地理分野の難化傾向は続いている。今年も図表を使った問題が数多く出題された。差がつく地理をどこまで細かく勉強しておくかが今後もポイントになりそうだ。</p> <p><b>1</b>歴史 昨年同様、古代から現代までを網羅した形式になった。平易な問題で解き易い。</p> <p><b>2</b>歴史(近現代) 選挙権の拡大を軸にした問題。因果関係を捉えたうえで重要年代は覚えておきたい。</p> <p><b>3</b>世界地理 アジア・南米・アフリカ・アメリカなど様々な地域から幅広く出題。問2の気候グラフ(南米)が難。</p> <p><b>4</b>日本地理 経度・緯度、産業(農業・工業)、都市部の人口の特徴等。問2の農業分布とグラフが難。</p> <p><b>5</b>公民 人権、国政と地方自治、裁判員制度、大企業と中小企業、日銀の金融政策、国連安保理とバランスよく出題。</p> <p><b>6</b>公民 少子高齢化と社会保障制度の典型パ</p>	<p>難化傾向にある社会科だが、その要因は総合力が試されている点にある。一問一答による反射的な知識だけでは高得点は狙えない。特に地理分野で図表が増え、記述問題も増加していることに留意しておきたい。時間との戦いになってきた。また、福岡県入試の過去問はもちろんだが、それに加えて新傾向の出題も増えているため、他の都道府県の入試問題にも取り組みたい。教科書をベースにした知識をもうワンランク上の使えるレベルに上げていく必要がある。</p> <p>また、記述力が求められている。自分の考えた答えを的確に表現するための訓練が必要。そのためには授業中の思考が大切になる。板書や答えを書き写すだけでなく、想像力を働かせること、問題を解いた後は、解説を読んで考え方の道筋を理解することだ。</p> <p>もうひとつ付け加えておくと、時事的な要素が増えつつあるので、教科書だけでなく、世の中の動きに敏感であること、それに関連することを自ら調べるような学習姿勢が求められているように思う。</p> <p>①歴史は用語を正確に理解する。その際、時代と人物と出来事をセットにしながらか、知識を立体化していくように心がける。重要年代は覚えること。</p> <p>②地理は資料やグラフに慣れ、分析する目を持つことを心がけてほしい。また、教科書以外から知り得る知識や情報も役立つ。</p> <p>③公民は世相を反映した出題が増えている。テレビでニュースやドキュメンタリー番組も見たり、大人どうしの会話に割って入ったりするのもいい。身近な問題から世の中に対する見識を広げていこう。</p>

	<p>ターン。ただ、説明に必要なグラフを選ばせるのは初めて。問2の記述問題も、書き出しが指定されている分、難しくはない。</p>	
理科	<p>例年通り4分野（生物・化学・地学・物理）から大問2題ずつの構成。学年別では1年生の内容が2題、2年生内容が3題、3年内容が3題。すべて実験、観察やそれに対する考察に関する問題になっている。作図やグラフを描く問題、記述式の問題も例年通り多く出題された。大きな傾向の変化もなく、全体としては解きやすい印象。しかし、基本の正確な理解がなければ点数を伸ばすのは難しい。</p> <p>①は植物の蒸散に関する問題。問3の道管を塗りつぶす問題は正確に解きたい。</p> <p>②はセキツイ動物の分類に関する問題。問2の記述問題は問題文中に書いてあること以外の特徴を書かなければならないので注意が必要。</p> <p>③は酸化銀の熱分解に関する問題。金属かどうかを確かめる問題は頻出。</p> <p>④はイオン（化学電池）の問題。問3の備長炭電池につなぐ電極を判断する問題は問題文中のアルミニウムはくの変化をしっかりと読むようにしたい。</p> <p>⑤は地層に関する問題。見開き2ページに渡り、問題文が長い。問4の柱状図をもとに地層の傾きを考える問題では、図の見間違いがないように丁寧に解いていくことが必要。</p> <p>⑥は太陽の動きに関する問題。記述問題が2題、問3の冬至の日の昼の長さを求める計算問題はやや難。ここで差がつく。</p> <p>⑦は磁界から受ける力に関する問題。問1の電流計の指針を読み取る問題は易しい。問2の抵抗を求める計算問題と問3のコイルの動きの問題は2月末に行った塾内最終予想模試と全く同じ問題だったので塾生はよくできていたようだ。</p> <p>⑧は運動とエネルギーに関する問題。問1の力の矢印を描く問題は作用点の位置に注意が</p>	<p>《新中学2年生・3年生へアドバイス》</p> <p>各学年の各分野から幅広く出題されます。出題内容は教科書から。実験・観察の目的、方法、結果、考察のすべてを理解することが大切です。なかなか大変ですね。</p> <p>そこで合格へのアドバイス！</p> <p>その1 実験・観察に積極的に取り組もう！絶対記憶に残るよ。</p> <p>その2 教科書を熟読しよう！教科書こそ宝の山です。読めば読むほど理解が深まる。</p> <p>その3 単位の意味を理解しよう！計算の基本は単位です。計算問題に強くなれ。</p> <p>その4 入試では正確さが必要！雑なところを無くし、細かいところに目を配ろう！</p> <p>その5 苦手の克服から逃げないで！入試はすぐにやって来る。今すぐ始めよう。</p>

	<p>必要。問4は斜面の傾きを変えたときの速さと時間を問う問題で難しい。</p> <p>全体的に難問は少ない。しかし、今年も[4]の備長炭電池の問題など教科書の隅々から出題されている。また正確さを求める作図の問題も数問あり、得点するには深い理解と注意力が必要。平均点は昨年度と大きく変わらないと思われる。</p> <p>ちくしん受験生は私立入試後に行ったテストや授業でふれた問題が多く、易しく感じた生徒が多いようだ。</p>	
英語	<p>大学入試改革や指導要領の改訂の流れを受けて英語4技能を意識した問題という印象。対話や文章の内容をつかみ場面や文脈に応じて英語で表現する問題が増えている。リスニング、[2]対話文読解、[3]エッセイ長文読解で新傾向の問題が加わった。難易度は昨年と大きく変わらないものの使われる英語表現に難しいものが増えていることと、過去問とは違った形式の設問にとまどった受験生もいたと考えられ、平均点はやや下がると思われる。</p> <p>リスニング 今年から時間が15分(昨年10分)、配点が20点(昨年17点)となり内容が濃くなった。問題1は例年質問への答を書いている選択肢から選ぶものだったが、選択肢も読み上げられる形に変わった。問題2、3は例年同様の形式・難易度。問題4は図が加わった点が変わったが英語を書く問題の解答は基本単語ばかり。全体的な難易度自体は過去問よりも易しいが、時間と分量の増加でリスニングが得意な生徒と不得意な生徒の点差が開くだろう。</p> <p>[1](対話文選択)形式・難易度とも昨年並みだが、5年前と比べると明らかに英文が長くなっている。</p> <p>[2](対話文読解)問1の5語から4語を選んで並べ替える問題は数十年変わっていない形式。福岡県は絶対に文の先頭部分の並べ替えは出さないで、無意識に大文字に変えたりしない</p>	<p>高校入試は、大学入試のように人と対面でスピーキング力を測る試験の導入は無理ですが、リスニングや筆記試験全体で、英語を使って表現する形の出題が増えています。従って読んだり聞いたりすることに加えて、書いたり話したりする力を日頃から磨いておく必要があります。英単語や英語表現を学ぶ際には、どのような場面や状況で使うのか、またどのような形で使うのかも含めて実際に使えるようにしておく必要があります。</p> <p>例えば、How about～?とHow is～?は日本語にするとどちらも「～はどうですか?」となりますが、How about～?は提案したり意見を求めたりする表現でaboutの後には名詞・動名詞を置くのに対し、How is～?は何かの様子を尋ねる表現でisの後には名詞を置くなどです。ここ数年ほど文法事項に対して細かい出題は今年はありませんでしたが、英語の意味を捉えるためにも、また自分で英語表現を用いるためにも、基本的な文法事項を正確に理解しておくことは変わらず必要です。</p> <p>また、リスニングの割合が増えたことで、英語で聞いて即座に内容を把握する力や、英語での質問にすぐ英語で答える「瞬発力」も必要となっており、常に生身の相手とのコミュニケーションを想定した英語学習をしていくようにしたいものです。それは必ずしも英会話スクール等に通うことばかりでなく、先生や友達と英語でやり取りしたり、ネットやメディアを活用して生きた英語に触れるようにしていくことで慣れていきます。</p>

よう注意。<be 形容詞+(that)文～>の表現は初めての出題。問2は昨年同様、会話の流れに合う英語を書く問題だが、share(共有する)の目的語として your idea(opinion, thought等)を答えるのは難しかったか。問3は新傾向で、対話文の話題となっているプレゼンテーションのために実際に作ったスライドと原稿が示され、その原稿中の virtues という単語と同じ意味の英語を対話文中から抜き出す問題と空欄にあてはまる英文を選ぶ問題。どちらも対話文の流れと合わせて考えれば解ける問題で、昨年まで出題されていた対話文の要約文の空欄補充問題を発展させた形式になっている。当然 virtue(美德)という単語を知っておく必要はなく、以前大学入試センター試験に出題されていた問題を連想させて興味深い。

③(エッセイ文読解)問1は新傾向で本文に関する英語の質問に英語で答える問題で易しめ。問2は例年通りの日本語記述問題だが、beautiful clothes which bring many colors to life in spaceships の和訳は難しめ。通常は「持つてくる・連れてくる」という意味で用いることの多い bring を県教委の模範解答は「もたらす」、many colors を「豊かな色彩」としていた(そんな日本語を書ける中学生はほとんどいないはず!)。「宇宙船での生活に多くの色を持つてくる美しい服」という直訳で十分だと思うが、採点基準は各高校の裁量に任されているので高校ごとで異なる。問3は2の問3と似ており、本文中の motivated の同意表現を選ぶ問題で gave power to が正解。これも正答のポイントが文脈が取れているかどうか。

④(自由英作文)30語以上で書くのは昨年同様。内容も「お世話になった先生への感謝を表すのに歌と手紙のどちらがよいか」という比較的書きやすいものだった。I want to～や make A B、It～for～to～など定番の表現を使って書けたという塾生が多かったようだ。

一方で、まとまった長い英文を読む練習も必要です。国語の文章を読むことと同様、入試対策を本格的に行う時期までは、ただ問題を解くための読み方をするのではなく、一文一文をきっちり読んでいながら大きな流れを捉える読み方をしていきたいものです。設問に必要な部分だけを拾い読みしていくような浅い読解では、入試のみならずその先の高校での英語学習に対応する力を養えません。

そして、そういった英語力を支えるのは地道な暗記や基本文法の習得の積み重ねです。コツコツと努力を続けていくことなしには実際に使える英語力につながりませんので、出てくる度に自分で時間を取って覚えたり練習したりすることを怠らずに取り組んでください。まずは学校の学習内容をきちんと身に付けていくことを優先し、余裕が出てきたら英検などで知識や能力を広げることを考えていくとよいでしょう。くれぐれも英検の3級を取ったから中3内容はバッチリだなどと軽く考えることは控えたいものです。

皆さんが大学入試を迎えるころには、今よりさらに求められる英語力や大学入試問題のレベルが上がることは確実です。また、どんな進路に進む生徒でも英語だけは必ず必要ですから、英語ばかりに偏重してはいけないとは言え、苦手教科にしていると様々な面で苦労することになりますので、今のうちから意識して頑張っておきましょう。